

福島工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	工業力学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0092		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		講義・演習		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		機械工学科 (R2年度開講分まで)		対象学年		4	
開設期		前期		週時間数		1	
教科書/教材		工業力学、青木 弘・木谷 晋共著[第3版・新装版] 森北出版株式会社					
担当教員		鄭 耀陽					
到達目標							
①静力学における力、モーメントのつり合い、重心を理解し計算できるようにする。 ②動力学における平面運動方程式を作ることができて問題を解けるようにする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (B)							
教育方法等							
概要		いままで学んだ物理，工業力学Ⅰ，材料力学の基本知識をもとに，より高度な力学問題の機械工業への適用を学習する。					
授業の進め方・方法		中間試験は授業中に50分で実施する。期末試験は50分で実施する。 課題等30%，中間試験30%，期末試験40%として評価し，60点以上を合格とする。					
注意点		基礎として工業力学Ⅰ及び，材料力学Ⅰ、Ⅱの内容をよく理解しておくこと。 自学自習の確認方法：演習・課題を提出させ，習得状況を確認する。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	序論		導入		
		2週	力の合成と分解		力の合成と分解		
		3週	力のつり合い（1）		同じ点に働く力のつり合い		
		4週	力のつり合い（2）		異なる点に働く力のつり合い		
		5週	重心（1）		重心の定義，公式の導出		
		6週	重心（2）		重心の求め方とその応用		
		7週	中間試験（50分間）				
		8週	点の運動（1）		接線加速度と法線加速度		
	2ndQ	9週	点の運動（2）		点の平面運動（直線，放物線，円運動）		
		10週	運動と力		ニュートン運動の三法則，慣性力		
		11週	剛体の平面運動（1）		慣性モーメント，角運動方程式		
		12週	剛体の平面運動（2）		平行軸の定理，直交軸の定理		
		13週	剛体の平面運動（3）		並進運動と回転運動を重ね合せた問題		
		14週	仕事，エネルギー，動力		仕事，エネルギー，動力		
		15週	工業力学Ⅱのまとめ		総合演習・復習		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	力学	力は、大きさ、向き、作用する点によって表されることを理解し、適用できる。	4		
				一点に作用する力の合成と分解を図で表現でき、合力と分力を計算できる。	4		
				一点に作用する力のつりあい条件を説明できる。	4		
				力のモーメントの意味を理解し、計算できる。	4		
				偶力の意味を理解し、偶力のモーメントを計算できる。	4		
				着力点が異なる力のつりあい条件を説明できる。	4		
				重心の意味を理解し、平板および立体の重心位置を計算できる。	4		
				速度の意味を理解し、等速直線運動における時間と変位の関係を説明できる。	4		
				加速度の意味を理解し、等加速度運動における時間と速度・変位の関係を説明できる。	4		
				運動の第一法則(慣性の法則)を説明できる。	4		
				運動の第二法則を説明でき、力、質量および加速度の関係を運動方程式で表すことができる。	4		
				運動の第三法則(作用反作用の法則)を説明できる。	4		
				周速度、角速度、回転速度の意味を理解し、計算できる。	4		
				向心加速度、向心力、遠心力の意味を理解し、計算できる。	4		
				仕事の意味を理解し、計算できる。	4		

				てこ、滑車、斜面などを用いる場合の仕事を説明できる。	4	
				エネルギーの意味と種類、エネルギー保存の法則を説明できる。	4	
				位置エネルギーと運動エネルギーを計算できる。	4	
				動力の意味を理解し、計算できる。	4	
				すべり摩擦の意味を理解し、摩擦力と摩擦係数の関係を説明できる。	4	
				運動量および運動量保存の法則を説明できる。	4	
				物体が衝突するさいに生じる現象を説明できる。	4	
				剛体の回転運動を運動方程式で表すことができる。	4	
				平板および立体の慣性モーメントを計算できる。	4	
				荷重が作用した時の材料の変形を説明できる。	4	
				応力とひずみを説明できる。	4	
				フックの法則を理解し、弾性係数を説明できる。	4	
				応力-ひずみ線図を説明できる。	4	
				許容応力と安全率を説明できる。	4	
				断面が変化する棒について、応力と伸びを計算できる。	4	
				棒の自重によって生じる応力とひずみを計算できる。	4	
				両端固定棒や組合せ棒などの不静定問題について、応力を計算できる。	4	
				線膨張係数の意味を理解し、熱応力を計算できる。	4	
				ねじりを受ける丸棒のせん断ひずみとせん断応力を計算できる。	4	
				丸棒および中空丸棒について、断面二次極モーメントと極断面係数を計算できる。	4	
				軸のねじり剛性の意味を理解し、軸のねじれ角を計算できる。	4	
				はりの定義や種類、はりに加わる荷重の種類を説明できる。	4	
				はりに作用する力のつりあい、せん断力および曲げモーメントを計算できる。	4	
				各種の荷重が作用するはりのせん断力線図と曲げモーメント線図を作成できる。	4	
				曲げモーメントによって生じる曲げ応力およびその分布を計算できる。	4	
				各種断面の図心、断面二次モーメントおよび断面係数を理解し、曲げの問題に適用できる。	4	
				各種のはりについて、たわみ角とたわみを計算できる。	4	
				多軸応力の意味を説明できる。	4	
				二軸応力について、任意の斜面上に作用する応力、主応力と主せん断応力をモールの応力円を用いて計算できる。	4	
				部材が引張や圧縮を受ける場合のひずみエネルギーを計算できる。	4	
				部材が曲げやねじりを受ける場合のひずみエネルギーを計算できる。	4	
				カスティリアノの定理を理解し、不静定はりの問題などに適用できる。	4	
				振動の種類および調和振動を説明できる。	4	
				不減衰系の自由振動を運動方程式で表し、系の運動を説明できる。	4	
				減衰系の自由振動を運動方程式で表し、系の運動を説明できる。	4	
				調和外力による減衰系の強制振動を運動方程式で表し、系の運動を説明できる。	4	
				調和変位による減衰系の強制振動を運動方程式で表し、系の運動を説明できる。	4	

評価割合							
	中間試験	期末試験	課題等	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	40	30	0	0	0	100
基礎的能力	30	40	30	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0